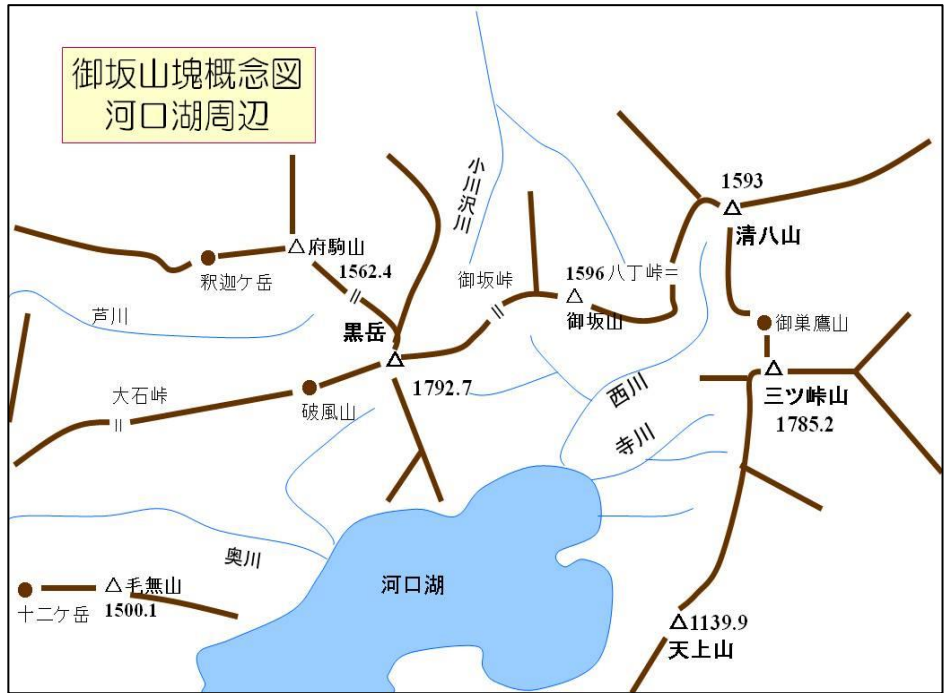


御坂	御坂峠から大石峠へ	No.092
----	-----------	--------

昭和42年9月3日
 9月に入ると朝の涼しさが身をもって感じられる。国立発4時52分の二番電車で高尾へ、そして高尾発5時24分の松本行。正月山行の時と同じ電車だが、今回は一人旅。三人の冬山がいろいろ思い出されてくる。
 大月6時09分着、5分の待ち合わせで富士急行に乗り換え。田野倉あたりから富士山が姿を見せ(この富士は美しい)、禾生、谷村



町、……三ツ峠と河口湖に近づくにつれて富士の形は膨れるように大きくなっていく。空はからりと晴れ上がり、まさしく雲ひとつなし。稲田はすでに実りの色を見せてほんに秋の風情。

富士吉田から甲府行のバスは7時20分発。裾野いっぱいに見せてくれる富士を車窓に、バスは鎌倉往還を御坂峠へ。峠下の御坂トンネル入口で降りるつもりが、居眠りしてしまい乗越し。トンネルを抜けてしばらく下った藤野木(とうのき)で下車。予定に反して御坂峠を裏側の旧道から登ることになった。

かなり歴史のある越路ゆえ、旧御坂峠への道は多少荒れてはいてももしっかりした道がついている。ゆるやかな傾斜で栈道の連続ののち道が消えてしまったので藪をこいで直登すると尾根に飛び出した。下から約一時間の行程。尾根に出てから数分で御坂茶屋に到着(9時30分)。

眼下に河口湖と富士山の雄大にして繊細な立ち姿。退屈そうな茶屋の夫婦と茶をすすりながらの語らい。さめし茶の渋くてうまし萩紅く 富安風生の俳句にこんなのがあったが……。

鳥の声と三人の話し声、ほかには誰もいないし何も聴こえない。しばし太宰治の心境に浸るひととき。

9時45分出発、稜線を西へ。ゆるやかな灌木の中の登りで黒岳(1792.7m)。10時25分、ここで昼食とする。弁当箱にびっしりと詰めたご飯を平らげて小休止。南アルプスは甲斐駒から赤石岳あたりまでがよく見える。近くの眺望は、三ツ峠、鹿留山、御正体山がかなりよく見える。11時05分、稜線を西へ出発。

破風山(1674m)を抜けて大石峠(1510m)12時30分。節刀ヶ岳方面へ縦走するつもりで稜線を小一時間登ったが、峠の静寂の中で日を浴びながら昼寝でもしようかなという気分になり、作戦変更して峠に戻った。一人旅は気軽に作戦を変更できて良い。14時まで休憩と昼寝。

富士が雲の隠れる頃、芦川をさして北側の谷へ下山。芦川から見ると、頂上に岩を付けた釈迦ヶ岳はなかなか立派だ。川に沿って少し下り新井原という集落でバス停にありつくことができた(14時55分)。畑の中の本当に何も無い集落で、道端に腰を下ろして谷間の景色に見とれながら約一時間のバス待ち。

バスは15時30分発だが10分ほど遅れて到着。北へ鳥坂峠のトンネルを潜って甲府盆地へ。(150円)トンネルを抜けると、盆地の中央に白く輝く笛吹川と盆地の北端に見える扇状地の地形が印象的だった。

甲府駅17時、駅そばを食べて17時24分発の臨時列車に飛び乗った。(甲府~国立360円)

以上

(修正・更新:2023年11月)